

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
517	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol consumption and non-Hodgkin lymphoma survival 飲酒と非ホジキンリンパ腫の予後	
<b>執筆者</b>	
Han X, Zheng T, Foss FM, Ma S, Holford TR, Boyle P, Leaderer B, Zhao P, Dai M, Zhang Y.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Cancer Surviv. 2010 Jun;4(2):101-9. Epub 2009 Dec 29.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、ワイン、蒸留酒、非ホジキンリンパ腫、予後、生存	
<b>要旨</b>	
<b>序論：</b> 疫学研究は、適当な飲酒がすべての疾患においてより低い死亡率をもたらすことを示している。飲酒はまた非ホジキンリンパ腫 (NHL) のリスク低下と関連していることが知られている。ここでは、消費した酒類と NHL サブタイプごとの飲酒の NHL 生存率に対する影響を検討した。	
<b>方法：</b> 1996-2000 年の間、コネチカット州で、575 人の女性 NHL 症例のコホート(追跡期間の中央値 7.75 年)を用いた。臨床そして生活習慣に関する情報は、診断時に収集した。生存分析はカプラン・マイヤー・モデルが使用され、ハザード比 (HR) はコックス比例ハザードモデルからを用いて算出された。	
<b>結果：</b> 非飲酒者と比べ、ワイン飲酒者はより高い生存率を示し(5年生存率 75%対 69%、ログラン検定 p 値=0.030)、より高い無病生存率を示した (5年無病生存率 70%対 67%、ログラン検定 p 値=0.049)。NHL サブタイプごとに分析した結果、ワイン消費による良い効果は主にびまん性大型 B 細胞リンパ腫 (DLBCL) と診断された患者に認められ (25 年以上のワイン飲酒者は非飲酒者と比べ、全死亡 HR=0.36, 95%CI: 0.14-0.94、疾病発症 HR=0.38, 95%CI: 0.16-0.94)。一方、蒸留酒飲酒は DLBCL 患者に悪い影響を認めた(疾病発症 HR=2.49, 95%CI: 1.26-4.93)。	
<b>結論：</b> 今回の結果は、診断前飲酒量と NHL、特に DLBCL 生存率とに中程度の関連があることを示した。より大きな研究で検証される必要がある。がん生存者への影響：診断前の行動が NHL 患者の予後と生存率に影響を与えるかも知れない。	